

# イルカ通信

2012年2月1日 NO.046

## 「鹿児島県のミナミハンドウイルカ」

ミナミハンドウイルカは、小笠原のほか、御蔵島や天草、奄美大島、鹿児島湾、能登島にも生息しているとお伝えしたのを覚えていますか？(イルカ通信 No.042を参照)今回は、鹿児島県に生息するミナミハンドウイルカについて書こうと思います。

鹿児島湾では1999年から、(独)遠洋水産研究所が鹿児島湾鯨類調査を企画し、鹿児島大学とかごしま水族館が協力して調査を始めました。調査はセスナ機や船を使って、イルカを探し、種の同定や頭数、位置を記録し、個体識別用の写真も撮影しています。

2002年の調査では1群6頭のミナミハンドウイルカが発見され、2008年では3群44頭、2011年には2群50頭が確認されました。ミナミハンドウイルカは毎年発見され、写真照合の結果から長期間に渡って鹿児島湾内に住み着いていることが明らかとなりました。関係者は鹿児島湾内の水温が高めで餌が豊富であることが、定住している理由と考えているようです。

ミナミハンドウイルカが毎年安定して発見されている一方で、2002年以降、確認され続けてきたハセイルカは2011年の調査では発見されなかったとのこと。調査回数が決して多いわけではないので、何とも言えませんが、こちらにもなります。

鹿児島湾のミナミハンドウイルカについて知りたい方は、以下のサイトをご覧ください。

「いおワールド かがしま水族館」  
<http://www.ioworld.jp/ikimono/ikimono26.html>

「MSN産経ニュース」  
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/120202/trd12020213540009-n1.htm>

## 「クジラの陸上観察会」

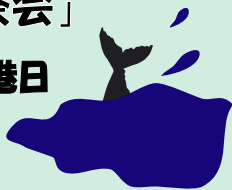
日にち : おがさわら丸父島入港日

時間 : 16:00-17:00

場所 : ウェザーステーション

主催 : 小笠原ホエールウォッチング協会

参加費 : 無料



## 「イルカの後ろ足」

まずはこちらの写真をご覧ください。



これはマダライルカのある部分の骨になります。長さは6cm、幅は1cm程度で、私たち人間にも存在する骨です。

正解は「骨盤」。正確には骨盤の痕跡になりますが、これがあることで、鯨類の祖先に後ろ足があったと言えるのです。鯨種によっては骨盤だけでなく、大腿骨や脛骨がある種も存在します。

ハクジラ類の骨盤痕跡では、写真のように細長い棒状の骨で、雌より雄の方が大きい傾向にあると言われています。一方、ヒゲクジラ類のものは、三角形の骨であることが報告されています。実物の写真はありませんが、博物館などで見る機会があれば、じっくりと観察してみてください。そして、まれに後ろ足のあるイルカが発見されることがあります。それが和歌山県太地町にある「太地町立くじらの博物館」で飼育されているハンドウイルカの「はるか」。興味のある方はホームページをご覧ください。

「太地町立くじらの博物館」  
<http://www.kujirakan.jp/>

今月の下旬にはマダライルカの全身骨格をB1階の1階に展示する予定です。もちろん今日、お話しした骨盤骨もあるので、是非見に来てください。よろしくお祈りします。